

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所
公益財団法人 友愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル2階

TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月~3月)
個人/3,000円以上
法人/10,000円以上

ミャンマー農業研修生三名来日

カピックセンター(鹿児島)にて一ヶ月の研修終了
平和を祈る友愛―広島を訪問―松井広島市長訪問
日本文化に触れ、地域の方々との文化交流も活発に

二〇一九年九月二十七日(金)ミャンマーからの農業研修生三名が成田に到着した。三人は十一月二十六日の帰国まで、二か月間を日本で過ごし、サツマイモの育成に関する技術を始め、お茶、キノコ、近郊野菜などの技術、流通方法などを学ぶ。その間、広島を訪れ、平和記念公園での献花、資料館の見学、被爆体験者の講話を聴くなど、平和を祈る友愛の理念に基づいた活動も行った。また、今回は松井広島市長が公務多忙の中、表敬訪問の時間を割いてくださり、鳩山由紀夫理事長の親書をお届けした。

農業従事者も加わって 今回の農業研修生三名は、左記の通り。

人選にあたっては、ミャンマーで公募を実施。四十名の応募者の中から、現地で窓口を務める市民活動団体・NLDにより第一選考で六名に絞られた応募者を、公益財団法人友愛の選考委員会で審査選考し、理事会による承認を受け、来日

の運びとなった精鋭である。三人の在日中の活動においては、在日ミャンマー人である、マウン ミヤット ウさん、ミヨウ ミン スエイさんが交代で、通訳を兼ねた世話係を務めてくださることになっている。

九月三日(月)、研修生三名が、友愛事務局を訪れた。初めての日本は、見るものすべて珍しくきれいだ



松井広島市長と記念撮影。オコノミヤキと書かれた看板を見ながら撮ると、笑顔になるそうです

鳩山由紀夫理事長を囲んで。みんな笑顔。理事長も笑顔。五年目を迎えた事業の着実な歩みか

理事会での報告を終え、全員で記念撮影。ハッキリとした意見に、理事・監事各位も感心していた



鹿児島県の施設カピックセンター(鹿児島県アジアカ太平洋農村研修センター)には、様々な国から研修生が訪れる。各国の国旗が飾られている中央玄関で、修了証を手記に記念撮影



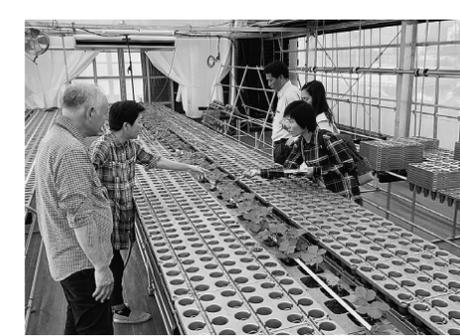
収穫された大きなサツマイモに歓声を上げた。甘くて美味しいサツマイモを作るのが、究極の目的

三人の在日中の活動においては、在日ミャンマー人である、マウン ミヤット ウさん、ミヨウ ミン スエイさんが交代で、通訳を兼ねた世話係を務めてくださることになっている。

九月三日(月)、研修生三名が、友愛事務局を訪れた。初めての日本は、見るものすべて珍しくきれいだ

と「スゴイ」を連発した。敬

しい原爆投下の時の様子、そして命からがら北へ向かって避難した様子などをお聞きした。「友愛」創設者鳩山一郎先生の遺志である核兵器廃絶を学ぶため、招聘事業では必ず広島訪問を組み入れているが、最後の広島は、いかがでしたか」の岸田さんの問いに、研修生達は「戦争は悲惨だ、戦争は何も生まない」と、異



苗作りを一から勉強。根を洗うなど、新しい知識に驚きの連続。意欲的な質問が続く



平等院鳳凰堂の前で。美しい寺だと大感激。仏教徒の多いミャンマーだけに真摯に手を合わせていた



被爆体験者岸田弘子さん(写真右)の話に耳を傾ける。戦禍の実態を知る彼等の心に響く

度な仏教徒の多いミャンマーでは、日本の大仏が人気を集めているとのこと。何より送り出してくれた友人、知人、故郷の人々のために、鎌倉に行き小さな大仏像を、沢山買ったという。

サツマイモに関する農業研修に一ヶ月を充て、その間カピックセンターのご厚意で、ホームステイ、茶道体験、着物を着てみるなど、日本文化にも触れ、人々の優しさにも触れ、多くの事を学んで、十一月四日、鹿児島を後にした。

十一月五日(火)広島平和記念公園を訪れ、慰霊碑に花を供えた。広島市役所国際交流課が用意してくださった花輪は、赤、緑、黄色のリボンで飾られていた。「ミャンマーの国旗の色



千羽鶴を捧げるブースの前で。昨日の夜、三時間の特別で各人が折った千羽鶴を手に

慰霊碑に花を供える。平和を祈る気持ち、強い。長い時間を合わせて、祈りを捧げていた

友愛時評

今年四月に新たな在留資格「特定技能」を新設する改正入管法が施行され、単純労働での外国人労働者活用に門戸が開かれた。これまで「多文化共生」にそれほど向いていた安倍内閣が深刻な人材不足に悩まされる財界の要望を受けての手のひら返しである。▼とはいえ、外国人の受け入れ体制については、国が本腰を入れるわけではなく、自治体やNPOにほぼ丸投げである。筆者の居住する宮城県でも対策を検討するとのことで、「外国人労働者等の受入体制のあり方に係る有識者会議」なるものもこの過日出席してきた。▼会議の出席者からは、人口減少社会の存続が外国人労働者にかかっている現状と今後の対応の必要性について、率直な情報共有と議論が行われた。とりわけ、筆者が感銘を受けたのは気仙沼の建設会社の取り組みである。技能実習生の帰国後の職場を確保すべくインドネシアに現地法人を設立したという同社は、思惑とは異なり帰国後に元実習生が就職してくれない状況を不思議に思った。ヒアリングを行った結果、日本での生活に不満を持つていることを知り、モスクとインドネシア料理店を開業するに至ったのだという。▼技能実習制度は「国際貢献」を謳い文句にしつつ、実際には農林水産業や建設業などでの人手不足を補う側面が強く「奴隷労働」とすら批判され、受け入れ先も実態をなかなか開示しない。そうした中で、こうした取り組みが地方でも自発的に出てきたことに日本人のすばらしさを感じ、将来の「友愛」のモデルを見る思いであった。(ヒゲ)



ミャンマー事業担当の井田理事（写真右から二人目）にも、研修生からお礼の品が贈られた



カビックから授与された「農業研修了証書」。毎年カビックセンターにはご尽力いただいている

口同音に答えていた。内戦が続いているミャンマーでは、戦争は現在のこのように深刻な問題意識があるようだ。松井広島市長が、公務多忙の中お時間を割いてくださり、お目にかかることができた。鳩山由紀夫理事長からの親書を手渡し、全員での記念撮影にに応じていただいた。松井市長は、継続的に力を入れて取り組んでおられる「平和首長会議」について話され、研修生は



この事業に絶大な協力をしてくださったミヤットウさん（左）とミヨウさん（右）

それぞれの自治体で、働きかけることを約束した。民族衣装に身を包み、理事会で報告。十一月九日（土）研修生の三名は、この日一〇時から開催されている理事会において、研修の成果などを報告した。鹿児島でのサツマ芋の栽培は、種芋の扱いが違い、美味しいサツマ芋を作る必要要件だと思ったこと。何より、土壌つくりが大切だということなどを学んだなど、それぞれが研修の成果を口にした。

理事、監事各位からは、日本が好きになりましたか？などの質問があり、三人は口々にこの様な機会を与えていただいたことに感謝すると、本事業について、心からの思いを述べていた。残された数日間ではあるが、三人の研修生は今後、岐阜でのキノコ作り、静岡でのお茶作り、軽井沢でのレタス栽培などを学び、十一月二十六日帰国の途につく。



また皆さまにお目にかかれて私も嬉しいですよ。と笑顔で講義を。安岡定子先生

講師には安岡定子先生をお迎えする。安岡定子先生は、斯界の第一人者として、「こども論語塾」の開催など幅広い活動を続けておられるが、公益財団法人友愛のため、多忙な時間をやり繰りしてお越しくださる。今回は、テキストも安岡定子先生が、オリジナルに

九月十四日（土）十四時から友愛サロン（友愛事務局三階）に於いて「論語に学ぶ友愛」講座がスタートした。友愛理念の普及啓発活動の一環として実施されるこの事業は、二〇一七年にも実施され、好評を博した。今回はその第二弾として、実施される。今回も沢山の応募があり、人気の様子がかがえる。学生の参加が無かったことは残念であるが、社会人が学ぶことの意義を実践していきたい。



友愛を学ぶ、論語に学ぶ、論語の仁は正に友愛ですと挨拶。鳩山由紀夫理事長

作ってくださったものを使用。安岡先生の、孔子にまつわる話、当時の中国の社会状況など、活舌の良い軽妙な話しぶりに、全員が聞き入っている。そして大好評の「音読」。参加者全員が、声を合わせて「論語」の一節を音読する。小中学校以来という人がほとんどで、声を出して読むこと、全員が声を合わせるなど、新しい「読書」の楽しみ方を感じているようだ。

「論語にみる友愛の理念」

また皆さまにお目にかかれて私も嬉しいですよ。と笑顔で講義を。安岡定子先生

友愛を学ぶ、論語に学ぶ、論語の仁は正に友愛ですと挨拶。鳩山由紀夫理事長

作ってくださったものを使用。安岡先生の、孔子にまつわる話、当時の中国の社会状況など、活舌の良い軽妙な話しぶりに、全員が聞き入っている。そして大好評の「音読」。参加者全員が、声を合わせて「論語」の一節を音読する。小中学校以来という人がほとんどで、声を出して読むこと、全員が声を合わせるなど、新しい「読書」の楽しみ方を感じているようだ。

「論語にみる友愛の理念」

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。



在オーストリア日本大使館。小井沼大使からの貴重なお話を聞かせていただきました（筆者）

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。

オーストリアで過ごした一〇日間を通して、オーストリア外務省や在オーストリア日本大使館、OJABが運営する難民施設、高齢者施設と幼稚園が一体となっている福祉施設、職業訓練学校、国連CTBTなど観光旅行では決して訪れることのできない所を訪問させて頂き、かけがえのない時間を過ごさせて頂きました。



国際連合ウィーン事務局。国連の役割について詳しく説明をさせていただきました。



難民の少年達とのセルフイー写真。皆で語り、かけがえない時間を過ごしました。



ビール醸造所。見学後のクラフトビールの試飲。飲みやすく、とても美味しかったです。



迫力のあるウィーン市庁舎にて。古き美しきヨーロッパ文化を間近に感じる建物です。



最終日ウィーン国際空港。十日間一緒だったエヤップのメンバー(写真中央)との別れはともにも寂しかったですが、また日本からウィーンで再会しようという約束をしました。



モーツァルトの生誕地、ザルツブルクにて。まさに美しき青きドナウがゆつくりと流れていました。



出会は宝。楽しい時を過ごせた笑顔は忘れることができません。難民支援施設の若者と。



老人施設で、一緒に作業体験。お隣で作っていたおばあさんにハイパバックをいただきました。



国連で世界を感じて(筆者)大きな世界、世界を舞台にこれから活躍しますと叫んでいます。



最後の晩餐は男揃ってビール。六人の兄弟姉妹も、飲むときは男意気、乾杯! 乾杯!(右端筆者)



最後の夜まで、食べる機会をとっておいしたワインナーシュニッツェル。噂に違わずデカイ!



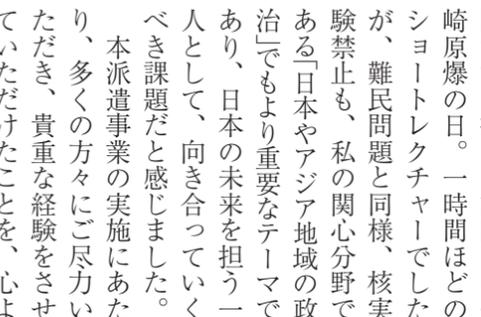
街中で一枚。天気良好。町並みが醸し出す雰囲気、どんなポーズでも様になる。



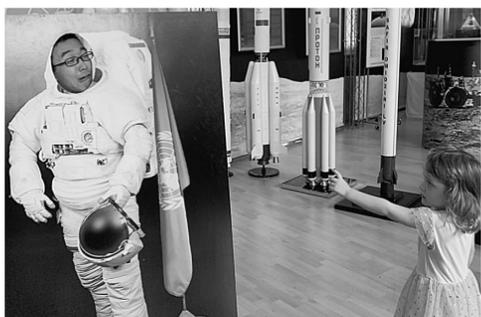
ホーエン・ザルツブルグ城からの眺望。ザルツブルグへの旅は、心に残るものでした。



趣深い建物と石畳の道。オーストリア外務省前にて。ヨーロッパを感じる建物と石畳の道が連なる。



そう、私がガガーリン、ではありません。小さな女の子に、指を指されてタジタジ



そう、私がガガーリン、ではありません。小さな女の子に、指を指されてタジタジ

と考えています。日本は先進国の中でも最先端の医療技術があり、社会保険や福祉の制度が充実しています。少子高齢化という大きな課題はありますが、世界平和に向けて日本が世界に貢献できる事は沢山あります。今回の経験を活かし、医療を通して、社会に貢献できる様に努力を積み重ねていきたいと思います。最後に、今回同時にこの体験をした六人の仲間や、海を越えてウィーンにも沢山の仲間ができました。プログラムの企画運営してくださった公益財団法人友愛の皆様方、OJAB、そして一日間私たちにガイドしてくれたスタッフにはとても感謝をしています。ありがとうございます。

山の間ができました。プログラムが終了した今も彼らとSNSを通して連絡を取り合っており、これからも互いに切磋琢磨していきたいと思っています。素敵な仲間たちに出会えた事が私の宝物になりました。プログラムを企画運営してくださった公益財団法人友愛の皆様方、OJAB、そして一日間私たちにガイドしてくれたスタッフにはとても感謝をしています。ありがとうございます。

もっと学び、ワンランク上の「これから」へ
名古屋大学法学部
三年 後藤大智
「初めてのヨーロッパ・オーストリアで学びたい、楽しみたい。」
「これまで」と「これから」を繋ぐ研修にしたい。そんな思いを持って参加した公益財団法人友愛が実施する本派遣事業は、毎日

が学びと感動にあふれていました。滞在中には多くの写真を撮りましたが、アメリカ以外、アジア諸国にしか訪問したことがない私にとっても新鮮で、すぐにカメラを構えたくまりました。荘厳な建物や石畳の道などの歴史的な景色と、街を走るトラムや電動スクーターなどの近代的な技術のコントラストが映えています。ちなみに、お気に入り

の景色は、ホーエン・ザルツブルグ城から見下ろした、ザルツブルグ旧市街の街並みです。(写真左)
本派遣事業の受入団体・エヤップ(OJAB)が運営する施設への訪問の中で、最も印象に残っているのは、難民の若者たちを支援している施設です。初めは私たちも彼らもお互い距離をとっていましたが、バレーボールを通じてとても仲良くなりました。いろいろな言葉が飛び交いながら、

真剣にプレーして、笑って、汗かいて、ただひたすら楽しかったです。しかし、夜遅くまで一緒に遊んでくれた彼らは、翌朝には私たちよりも早くに学校や仕事へと出かけて行きました。オーストリアに逃れて来られたこと、ご飯が食べられること、学び働けること、それは幸せなことなのだろうか? 「難民」という言葉を取り巻く様々な問題の奥深さを知りました。

OJABの施設以外の訪問で記憶に残っているのは、CTBTO(包括的核実験禁止条約機関)への訪問です。折しも訪問日は長崎原爆の日。一時間ほどのシヨートレクチャーでしたが、難民問題と同様、核実験禁止も、私の関心分野である「日本やアジア地域の政治」でもより重要なテーマであり、日本の未来を担う一人として、向き合っていくべき課題だと感じました。本派遣事業の実施にあたり、多くの方々にご尽力いただき、貴重な経験をさせていただけたことを、心より御礼申し上げます。特に、毎日ほとんど休まず、私たちのアテンドをしてくれたエヤップにインターンのニキさん。頑張った日本語で話そうとする姿に応援したくなりましたし、私たちへの細やかな気遣いに感謝しています。また、一緒に過ごした五人の仲間たちにもとても感謝です。普段聞けない他分野の話や存分に聞いたり、議論したりして、もっと勉強したいという思いが湧きました。ありがとうございました。ありがとうございます。

仲間たちとの会話にとどまらず、本派遣事業全体を通して、まだまだ自分の知識が足りないという意識が持てないという事を痛感しました。オーストリアでの経験も、この感想文を書いている時点ですでに「これまではありますが、これから」に繋ぐためにも、次なる一歩を踏み出して、より成長していきたいと思っています。

研修を終えて

一橋大学経済学部
四年 吉田大志

出発前はエヤップの事業を通じて、オーストリアの現状を理解したいと意気込んでいましたが、研修を振り返ってみると期待を遥かに超える学びがありました。特に難民施設や高齢者住宅、移民・難民向けの語学学校への訪問は、オーストリアがどのような社会課題と向き合っているかが体感でき、同時に日本が今後進むべき道についても視座を深めることができました。

個人的にはウィーンの歴史的建造物の数々に目を奪われていました。市内を縦横無尽に走るトラムの窓から見える景色は、まるでハプスブルグ家が栄華を極めた時代にタイムスリップしたかのように錯覚させるほど美しかったです。

研修で最も印象に残っていることは、難民施設でアフガニスタンから逃れてきた少年たちと交流したこと

美味しいピザ屋さんで一休み。大きなピザを手にご機嫌の筆者。これくらいは一人でペロリです



です。実のところ難民施設を訪問する前、少年たちに対してどのようなふるまえばいいのかわからず、緊張していました。しかし、それは杞憂でした。

なぜなら、難民施設の少年たちは普通の少年たちと何ら変わらない生活を送っていることを実感したからです。少年たちは皆、学校に通っていたり、仕事に就いていたり、社会との接点を持っていました。確かに彼らの中には、オーストリア政府から難民として正式に認定されていない人もおり、不安な状態で毎日を過ごしているもおおしくはないのですが、少なくとも私たちの前では、元気に明るく振舞っていました。

バレーボールで仲良くあった少年に家族と離れ離れで寂しくないのかと聞くと、「週に一度は電話しているし、施設にはたくさんの方達がいるから、寂しくはないよ」と、言っていました。

不安定な立場であるにも関わらず、毎日を懸命に生きていく彼らとの交流を通して、私は大いに刺激を受けました。残り半年の学生生活をただ惰性的に過ごすのではなく、何か目標を持ち、それに向かって努力していこうと決意しました。

オーストリアの外務省でのレクチャーでは、増え続ける移民や難民を排除するのではなく、多種多様なアプローチで、オーストリア社会に溶け込んでもらうことを目指していることを勉強しました。しかし、レクチャーをしてくれた職員の方によると、オーストリアの移民・難民に対する政策はアメリカやカナダに比べると十分とは言えず、改善すべき部分が残されているそうです。これからオーストリアが移民・難民に対してどのような対応をしていくのか、注目していきたいです。

そして難民施設への訪問は、それまで私がいかに難民に対して偏見を持っていたのかということに気づかされました。難民はメディアで貧しい人々であると

か、治安を悪化させる原因であるという取り上げ方をされる傾向にあり、それが難民との交流に不安を私に抱かせていた元凶でした。この経験から、メディアの情報を鵜呑みにするだけではなく、自ら積極的に調べることが大切であると実感しました。

今回の研修での実り多き学びは、エヤップと友愛の関係者の皆様のご尽力があったからこそだと思っております。本当にありがとうございます。

方によると、オーストリアの移民・難民に対する政策はアメリカやカナダに比べると十分とは言えず、改善すべき部分が残されているそうです。これからオーストリアが移民・難民に対してどのような対応をしていくのか、注目していきたいです。

シエーンブルン宮殿でお揃いのポーズ。ともかく六人は兄弟姉妹の様に仲良しです

ウイーン空港に一同無事到着。こちらから六人とニキの大冒険が始まりました



グライフェンシュタインのエヤップ難民ハウス居住中の少年達とバレーボールを通して交流



見学続きでちょっと疲れて。休憩中のニコマ。ニキがお兄さんのようにみんなを見守っています

シエーンブルン宮殿でお揃いのポーズ。ともかく六人は兄弟姉妹の様に仲良しです



各種のマネジメントしてくれたエヤップでインターン中のニキとツーショット。七人目の兄弟



充実した国連ウイーン事務局の見学でした。国連の旗を見にまわらなくて、初めての体験！

有名ナポレオンの肖像画とツーショット。英雄気分というより、完全な観光客の体



有名ナポレオンの肖像画とツーショット。英雄気分というより、完全な観光客の体



ひとこま

さて、今回のひとこまはいずれも宇治市での撮影です。上の写真、何だかわかりますか？これは「仏手柑（ぶつしゅかん）」という柑橘類の一種です。つけた実が、まるで仏様が印を結んでいるときの手のようだということから名付けられたようです。この鉢植えがあつたのは、平等院の鐘楼の近く。人通りの少ない場所に、凛として大きな実をつけている様は、ちょっと出来すぎの感がある程、場所に似合っていました。ちなみに、この仏手柑は食べられます。しかし、果肉は無いので、皮を甘く煮て食べるそうです。マーマレードにも最適とか。

下の写真、何に見えますか。高さは大人の身長くらい、横は七〇センチはあるでしょうか。良く良くみると答えは一目瞭然、解るのですが……。そう、郵便ポストです。このポストが設置されているのは、JR宇治駅前。まさに茶所宇治ならではのデザインといえるでしょう。

『友愛』読者の皆さんの町にも、このようなユニークなポストがあるのでないでしょうか。散歩がてら探してみてください。そして見つければ是非『友愛』にご投稿ください。ポストに限らず、我が町の自慢など、是非お寄せください。お待ちしております。



今月号は発行が遅くなりました

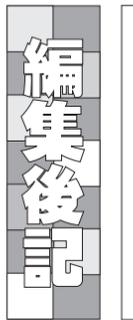
今月号（十一月号・第五六二号）は、掲載記事の都合で発行日が遅くなりました。慎んでお詫び申し上げます。悪しからずご了承ください。未来に続け！

機関紙「友愛」編集部

公益財団法人 友愛
会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆様のご支援・ご理解のもと活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。
 *申込みはHPからも *お問合せは事務局まで 電話03-5684-3188

<https://yuai-love.com> にアクセスを!!



◆先日、エヤップに派遣の学生さん、一月号で紹介する中国に派遣の学生さん、そして前回派遣の学生さん（既に社会人になった方も）さんが一堂に会し、話し合う機会がありました。まさに同窓会の体で、「久しぶりー」から始まって全員和気藹々、お忙しい中、理事長、川手最高顧問も終始笑顔で、ご一緒してくださいました。この様子は次号でご紹介します。若い人が集まる、エネルギーが集結する、喜びと笑顔が溢れる、それだけでも嬉しい状況です。社会人となった人はちよっと先輩面、未来を語る学生は輝いていて、側にいるだけで幸せになりました。未来に続け！（も）